



わさびとあんこの相性が抜群のあんバターわさこ。



準グランプリを受賞した「全国ふるさと甲子園」。



2月上旬の開花に合わせ行われる河津桜まつり。

「旅の思い出とともに、新鮮なわさびの辛味も記憶に残してほしい」

わなくなり、運営していた会社の解散が表面化してくることになる。この建物自体を解体するという話も浮上し、飯田さんはさらに危機感を募らせる。「この町を象徴する建物がなくなれば、観光地としてさらにダメージを受けます。地域文化を守るために苦肉の策として、商工会事業のなかで活動していた『河津わさびで泣かせ隊』の有志がお金を出し合い、15年4月に『株式会社泣かせ隊』を設立しました。商工会名義では商売ができませんので……この建物を商工会が管理委託するかたちで借り受け、食堂と土産部門を当社が運営していくというところで出資者の意見がまとまりました。その運転資金として、日本政策金融公庫さんから融資していただいたのです」

会社設立後の最初の課題は、泣かせ隊が運営する「泣かせ隊食堂」の認知度を上げ、それにもない河津わさびの奥深さをどのように広めていくかに尽きた。限られた予算の中では膨大な広告費は計上できない。そこで需要を喚起するため、斬新なアプローチで販売促進ツールの制作に取り組んだ。スタイリッシュなHPやアイデアが詰まったパンフレットには、食欲をそそる写真とともに考え抜かれたキャッチコピーが躍る。

わさびは、料理を引き立てる調味料



会社概要

所在地：静岡県賀茂郡河津町梨本 379-13
業種：飲食業/土産販売業
資本金：300万円
設立：2015年4月
従業員数：8名



株式会社泣かせ隊

<http://www.nakasetai.com>

伊豆半島に再び活気を取り戻すべく開発された、わさびをメインにしたグルメ料理誕生までのストーリー。自慢の一品が、恵まれた自然とともに、地元観光産業の発展への一役を担う。

STEP 1 創業のきっかけ

観光の火を消したくないという思いから生まれたプロジェクトチーム

伊豆半島の中でも河津町には、訪れる人々の心に鮮やかな印象を残す観光名所が多数ある。ほんのわずかな距離に連なるように顕在する「河津七滝」「ロングビーチで有名な「今井浜」、約1カ月にわたって艶やかに咲き誇る「河津桜」……。

この自然豊かな町が、ここ何年もの間、観光客の減少に悩まされている。このまま観光の火を消してはいけないという思いから、2015年4月に起業したのが、飲食・土産販売を営む株式会社泣かせ隊である。創業者の飯田正臣さんが設立までの経緯を述べる。

「全国各地の交通機関の発達によって、伊豆半島以外にも都心から行きやすい観光地は増えました。お客様が来るのをただ待つのではなく、どうすればこの町に再び活気が戻るのか、熟思する必要がありました」

12年、地元の商工会が中心となり、プロジェクトチームが結成された。この地域の特産品であり、数多くの生産農家が健在で、近年は健康面でも注目を浴びている食材のわさびを活かしたレシピを開発し、地域活性化の起爆剤にしようというのが目的だった。「この町には心の安らぐ場所がたくさん

ではなく、それ自体が主役であるという着眼点から、7種のメニューは、個性溢れるネーミングの料理に変貌した。泣けるけど、おいしい、おいしいけどやっぱ泣ける、クセになる！と「河津鮎泣きそば」といった自慢のメニューが誕生した。

STEP 3 今後の展望

会社の発展、河津の発展、伊豆の発展のために考えるべきこと

また、人気ドラマ「孤独のグルメ」で、「わさび井」が取り上げられたことも追い風となった。

「このドラマの影響で多くの人が河津町を訪れるようになりました。これを機にツイッターやフェイスブックを使って、食堂の宣伝をしました。最近では、「わさび井」と「あんバターわさこ」が全国ふるさと甲子園で準グランプリを獲得しました。今、ようやくお客様が増え始めたところなんです」

泣かせ隊が描く未来図は、自社の成功だけではない。河津町全体の発展に寄与したいと考えている。「わさびを取り扱う競合店は町内に多いのが現状ですが、河津町を活性化させたいという思いはみんな一緒。私たちの開発したメニューも自分たちで独

んあります。旅の思い出とともに、新鮮なわさび料理のスツとする辛味も記憶に残してほしいという想いを込め、プロジェクトチームを「河津わさびで泣かせ隊」と名付けました」

まず、チームとして推進したのは、わさび本来の香りを引き出すためのグルメ料理の研究、開発だった。観光スポットの「河津七滝」の「七」にあまり膨大なレシピ数の中から約1年半をかけて7種をセレクトし、河津町の飲食店に販売を依頼した。しかし、この試みは大きな成果をもたらすには至らなかった。

「今考えると、新鮮な生わさびの魅力が、一般に浸透されていなかったのが敗因だと反省しています。商工会としては、この町の飲食店の売り上げ向上に貢献できなかったのは痛恨の極みです。しかし天城の恵まれた水質によって香り高い風味を醸し出す河津わさびは、自信を持って全国の人にお薦めできる食材です。その気持ちはいささかも変わりませんでした」

STEP 2 事業スタート

大切にしたのは、わさびは料理の脇役ではなく、主役だという着眼点

しばらくすると、第3セクターが運営していた河津町のシンボリックな施設、「七滝観光センター」の採算が合占するのではなく、河津町のさまざまな場所で食べていただくのが理想です。観光スポットに、統一された地域特産のメニューがあるのは必須です。険しい道のりが続くでしょうが、一つひとつ難関を突破していくことで、会社も成長していくと思っています」

Point of note

■ 河津わさびの魅力

この地で、江戸時代から盛んだったといわれるわさびづくり。伊豆全域に及ぶ恵まれた自然が生んだ水質の良さと、わさび農家が発展してきた歴史がある。今日では、ほかでは味わえない、新鮮な生わさびを求めて全国から多くの観光客が訪れるようになった。



今や河津は河津桜に限らず「わさび井の聖地」として認知されている。

Profile



株式会社泣かせ隊
代表取締役
飯田正臣さん

河津町出身。代々続く温泉施設業を営み、現在は河津町商工会の会長を務める。地域をまとめ、河津町をはじめ伊豆全体の観光業の発展に取り組んでいる。